

## ブラジル

景気  
(実質)  
GDP

Q1GDP成長率  
**-5.4%**  
前年同期比

### 【景気後退和らぐ】

解雇が雇用を上回るなど雇用環境は劣悪も、農業などに回復の兆し。内需低迷を、商品市況反発を背景とした外需が補完。景気後退も予想より軽微の見込み。

物価  
(CPI)

7月中旬インフレ率  
**+8.93%**  
前年同月比

### 【インフレ抑制に苦慮】

中銀総裁は「17年にインフレを目標圏内に(3-6%)させる道のり険しく、インフレ見通しの下振れ加速が不十分」とし、当面は政策金利据え置きを示唆。

金融  
政策

**14.25%**

### 【8会合連続据え置き】

ゴールドファイン中銀総裁の下での初会合。インフレ圧力根強く、利下げ余地なしとのタカ派的姿勢を示す。物価抑制に厳しい姿勢示し、中銀の信頼回復に尽力。

国際  
収支

6月経常収支  
**-25**  
億米ドル

### 【赤字へ逆戻り】

急激なレアル高が重しとなり、輸出伸び悩み、再び赤字計上。外国直接投資や貿易黒字の減少など対外収支悪化傾向。

為替

〈騰落率〉

	(7月末)	1か月間 (6月末)	3か月間 (4月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1レアル=31.39円)		(32.11円) <b>2.25%</b>	(30.96円) <b>1.40%</b>	(30.37円) <b>3.37%</b>
対ドル (1ドル=3.25レアル)		(3.21レアル) <b>1.15%</b>	(3.43レアル) <b>5.41%</b>	(3.96レアル) <b>17.97%</b>

### 【政治的リスクくすぶる】

テメル大統領代行の違法献金疑惑浮上で、再び政治的リスク懸念が台頭、レアルの重しに。

株式

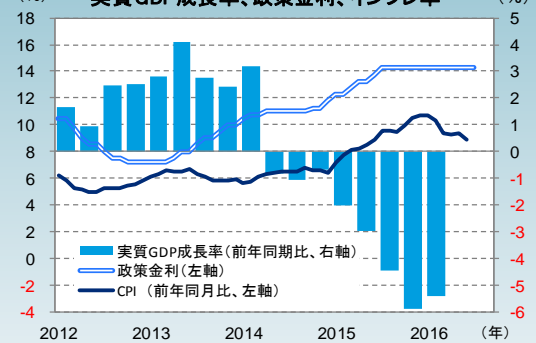
〈騰落率〉

	(7月末)	1か月間 (6月末)	3か月間 (4月末)	年初来 (15年12月末)
ボベスパ指数 (57,308.21)		(51,526.93) <b>11.22%</b>	(53,910.51) <b>6.30%</b>	(43,349.96) <b>32.20%</b>

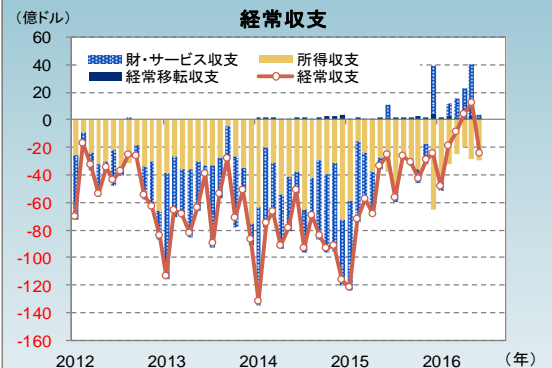
### 【下値限定的】

先進国の金融緩和を背景とした流動性相場により海外資金が流入、下値限定的。

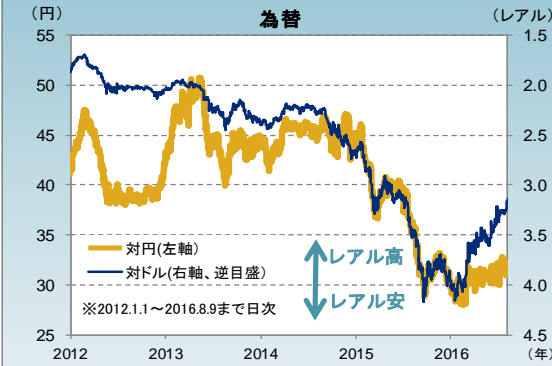
実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



経常収支



為替



株価指数(ボベスパ指数)



## オーストラリア

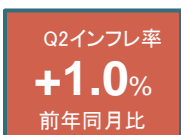
景気  
(実質)  
GDP



### 【穏やかな拡大】

低金利・低インフレを背景に個人消費が堅調。鉄鉱石等の市況回復で輸出が底入れ。総選挙で辛勝したターンブル政権下での財政健全化策の遅延が懸念材料。

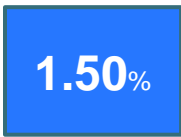
物価  
(CPI)



### 【17年ぶり低水準】

抑制された労働賃金や海外のディスインフレ圧力により、中銀目標下限の2%を大きく下回る低インフレで推移する見通し。

金融  
政策



### 【過去最低金利に利下げ】

想定以上の低インフレと失業率悪化を憂慮、過去最低の金利水準でインフレ目標達成を促す。中銀は景気の足かせになりうる通貨高をけん制。

国際  
収支



### 【貿易赤字拡大】

堅調な内需から消費財・資本財の輸入が増加。一方で、金や石炭等の輸出が伸び悩み、市場予想上回る赤字を計上。

為替

〈騰落率〉

	(7月末)	1ヵ月間 (6月末)	3ヵ月間 (4月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1豪ドル=77.66円)		(76.89円) <b>1.00%</b>	(80.96円) <b>4.07%</b>	(87.60円) <b>11.35%</b>
対ドル (1豪ドル=0.76ドル)		(0.75ドル) <b>1.96%</b>	(0.76ドル) <b>0.16%</b>	(0.73ドル) <b>4.25%</b>

### 【下値限定的】

先進国国債が低金利やマイナス金利に沈む中、金融緩和後も相対的な高利回りの豪ドルの選好が継続、下値限定的。

株式

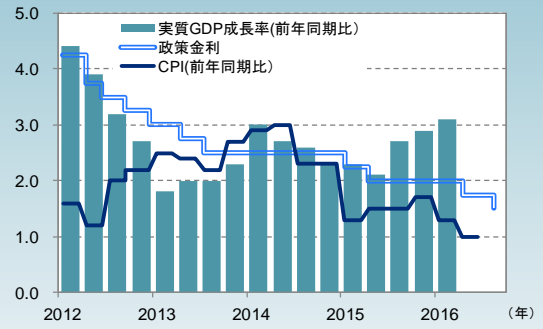
〈騰落率〉

	(7月末)	1ヵ月間 (6月末)	3ヵ月間 (4月末)	年初来 (15年12月末)
S&P/ASX指数 (5,562.36)		(5,233.38) <b>6.29%</b>	(5,252.22) <b>5.90%</b>	(5,295.90) <b>5.03%</b>

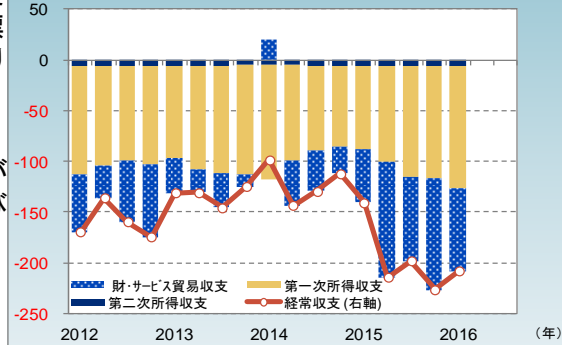
### 【上値追う展開】

値動き荒い原油相場に資源株が振られるものの、堅調な米国市場に追随し上値追う展開。

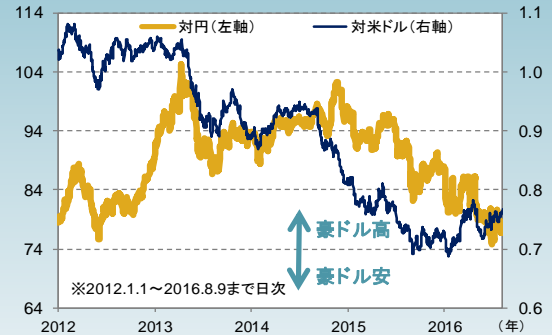
実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



経常収支



為替



株価指数(S&P/ASX200種)



## トルコ

景気  
(実質)  
GDP

Q1 GDP成長率  
**+4.8%**  
前年同期比

### [7/15クーデター未遂事件]

クーデター未遂後、エルドアン大統領の強権的姿勢一段と強まる。政治的不透明感の高まりと海外資金流入停滞の懸念からS&Pはトルコ国債をBBへ格下げ。  
※S&P 米大手格付け会社スタンダードアンドプアーズ

### [6か月ぶり水準]

アルコール飲料・タバコが増税で前年比+19%。食品も高止まり。最低賃金の引き上げと通貨安を背景に、政府目標(年末までに+7.5%)上回る公算大。

### [上限金利]

上限金利に続き、預金準備率を引き下げ、最大11億リラと6億ドルの資金供給。クーデター未遂を受け、無制限の流動性供給で金融安定化に万全期する方針。

物価  
(CPI)

7月インフレ率  
**+8.79%**  
前年同期比

金融  
政策

**7.5%**

国際  
収支

6月貿易収支  
**-66**  
億ドル

### [観光業打撃]

ロシアとの政治的緊迫で観光客が前年比-41%と記録的に急減し観光業を打撃。赤字幅は拡大、前年比+5%の貿易赤字。

為替

〈騰落率〉

	(7月末)	1か月間 (6月末)	3か月間 (4月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1リラ=34.02円)		(35.87円) <b>5.16%</b>	(38.23円) <b>11.02%</b>	(41.25円) <b>17.52%</b>
対ドル (1ドル=2.99リラ)		(2.88リラ) <b>3.87%</b>	(2.80リラ) <b>6.91%</b>	(2.92リラ) <b>2.44%</b>

### [過去最安値更新]

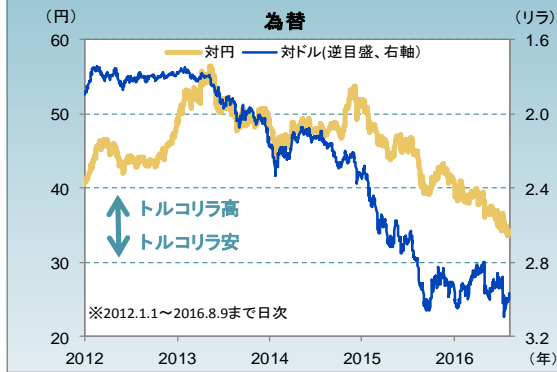
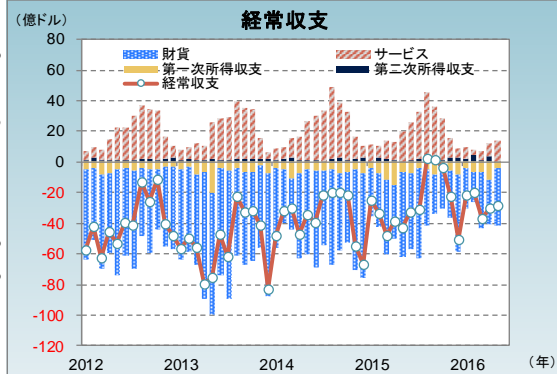
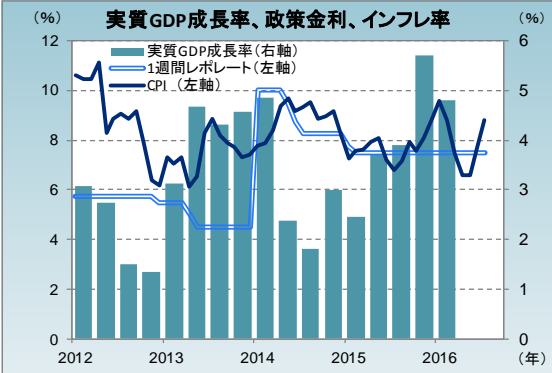
クーデター未遂事件で政治的リスク高まったとしてS&PがBB+→BBへ格下げ。見通し悪化も嫌気され、一時過去最安値更新。

〈騰落率〉

	(7月末)	1か月間 (6月末)	3か月間 (4月末)	年初来 (15年12月末)
イスタンブール 100種指数 (75,405.53)		(76,817.19) <b>1.84%</b>	(85,327.80) <b>11.63%</b>	(71,726.99) <b>5.13%</b>

### [一時最大の下げ幅]

クーデター未遂後に一時最大の下げ幅となるも持ち直し。米大手格付け会社ムーディーズの格付け据え置きも好感される。



## メキシコ

景気  
(実質)  
GDP

Q2GDP成長率  
**+2.4%**  
前年同期比

### [前期比3年ぶりマイナス]

米国向け輸出が低調、歳出削減による原油減産で国営ペメックスの業績低迷。鉱業不調で実質GDPは前期比-0.3%と3年ぶりマイナス。一方、個人消費は堅調。

物価

6月インフレ率  
**+2.65%**  
前年同期比

### [微増]

政府統制のエネルギー価格上昇やペソ安の影響を受けるも、市場予想下回る。交通・住居費が落ち着き、中銀目標の+3%を1年以上下回る低インフレが継続。

金融  
政策

**4.25%**

### [据え置き観測]

予想下回るインフレ率を受け、中銀の利上げ観測後退。ただ、トランプ氏が大統領候補となるなどペソ安懸念依然根強く、米国より前倒しの利上げの可能性も。

国際  
収支

6月貿易収支  
**-5.2**  
億ドル

### [貿易赤字縮小]

外需低迷でペソ安にもかかわらず原油や鉱物の輸出が伸び悩む。一方で、景気減速により消費財、中間財等の輸入が急減、貿易赤字は縮小傾向に。

### 〈騰落率〉

	(7月末)	1か月 (6月末)	3か月 (4月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1ペソ=5.44円)		(5.64円) <b>3.57%</b>	(6.20円) <b>12.20%</b>	(6.99円) <b>22.14%</b>
対ドル (1ドル=18.76ペソ)		(18.28ペソ) <b>2.61%</b>	(17.18ペソ) <b>9.20%</b>	(17.20ペソ) <b>9.05%</b>

### [外部に振られる展開]

主要産油国の増産凍結期待から、8月に入り産油国通貨のペソ堅調。米国の強い雇用統計なども追い風。外部要因に振られる展開か。

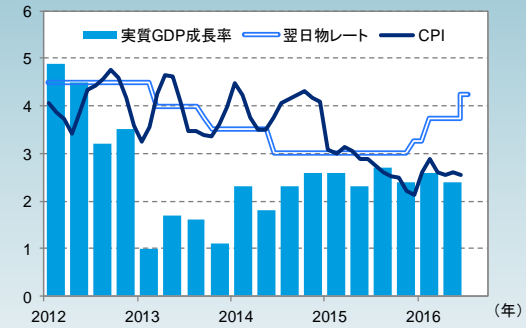
### 〈騰落率〉

	(7月末)	1か月 (6月末)	3か月 (4月末)	年初来 (15年12月末)
ボルサ指数 (46,660.67)		(45,966.49) <b>1.51%</b>	(45,784.77) <b>1.91%</b>	(42,977.50) <b>8.57%</b>

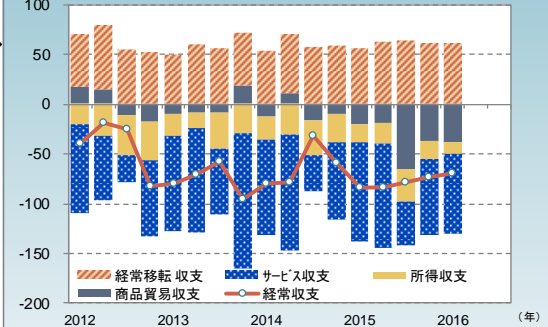
### [下値限定的]

世界的に高利回りを求める投資マネーの流入や中銀の利上げ時期後ずれ観測が株式市場の追い風に。

実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



経常収支



為替



株価指数



為替

株式

## 南アフリカ

景気  
(実質)  
GDP



### 【与党が大敗】

経済停滞やズマ大統領汚職問題に国民の不満高まり、地方統一選挙で与党が大敗、94年の政権獲得以来最悪の結果に。野党攻勢強まり、複数政党体制移行へ。

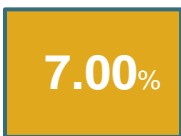
物価



### 【インフレ期待和らぐ】

景気低迷にもかかわらず、大干ばつの影響で食料品高止まり。一方、ランドの反発を受けインフレ圧力和らぎ、中銀はインフレ見通しを若干下方修正。

金融  
政策



### 【据え置き】

インフレ懸念根強いが、ぜい弱な経済に鑑み、金融引き締めを先送り。中銀は16年成長見通しを0.6→0.0%に下方修正。

国際  
収支



### 【貿易黒字】

通貨安で食料品等の輸出が好調、2カ月連続の貿易黒字を計上。経常赤字縮小が好感され、ランド反発の要因に。

為替

### 〈騰落率〉

	(7月末)	1ヵ月 (6月末)	3ヵ月 (4月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1ランド=7.35円)		(7.01円) <b>▲4.93%</b>	(7.47円) <b>▲1.63%</b>	(7.78円) <b>▲5.48%</b>
対ドル (1ドル=13.88ランド)		(14.74ランド) <b>▲5.85%</b>	(14.23ランド) <b>▲2.45%</b>	(15.48ランド) <b>▲10.32%</b>

### 【海外資金流入】

米国利上げ時期後退観測や流動性相場を背景に、高金利志向の海外マネーが流入、上値模索する展開へ。

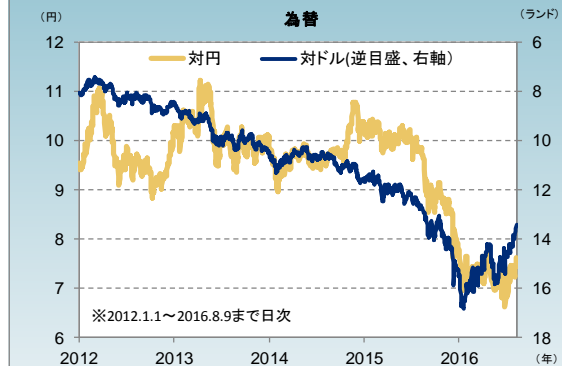
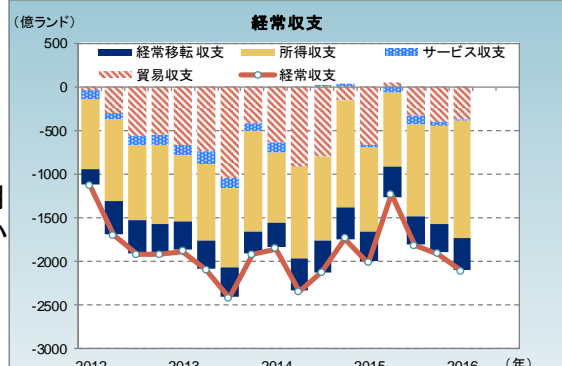
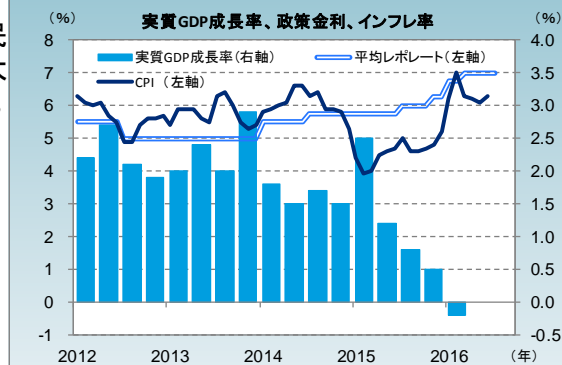
株式

### 〈騰落率〉

	(7月末)	1ヵ月 (6月末)	3ヵ月 (4月末)	年初来 (15年12月末)
TOP40株価指数 (45,916.48)		(45,974.31) <b>▲0.13%</b>	(46,471.00) <b>▲1.19%</b>	(45,797.30) <b>▲0.26%</b>

### 【連立与党を評価】

与党のアフリカ民族会議(ANC)の野党との連立が透明性増すと市場は評価、株価を後押し。



## 中国

### 景気 (実質) GDP



#### [公共投資頼み]

過剰債務で民間企業の固定投資や雇用が振るわず。銀行の不良債権や貸し倒れ増加で個人消費伸び悩む。一方で公共投資や不動産投資が堅調、けん引役に。

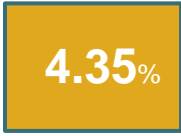
### 物価



#### [6ヵ月ぶりの低水準]

前月から大幅鈍化した豚肉(前年同月比+30%→同16%)はじめ、食品価格の落ち着きが主因。PPI(生産者物価指数)のマイナス幅も縮小し、デフレ圧力和らぐ。

### 金融 政策



#### [利下げ余地]

政府目標の3%を下回るCPIを受け、利下げ余地生じる。一方で、金融緩和をしても企業が流動資産を留保し投資拡大しない、「流動性のわな」の懸念が浮上。

### 国際 収支



#### [マイナス幅縮小]

元安背景に對外直接投資が増加、資本・金融収支は595億ドルの赤字。貿易黒字を計上するも、世界的な弱い需要を受け、輸出入ともに市場予想下回る大幅減。

(騰落率)

### 為替

	(7月末)	1ヵ月 (6月末)	3ヵ月 (4月末)	年初来 (15年12月末)
対円 (1元=15.38円)		(15.54円) <b>1.05%</b>	(16.42円) <b>6.35%</b>	(18.52円) <b>16.97%</b>
対ドル (1ドル=6.64元)		(6.64元) <b>0.05%</b>	(6.48元) <b>2.50%</b>	(6.49元) <b>2.23%</b>

#### [元安一服か]

9月に杭州で開催されるG20首脳会議を控え、元安トレンドは一旦落ち着き、当面は対ドル相場で安定する模様。

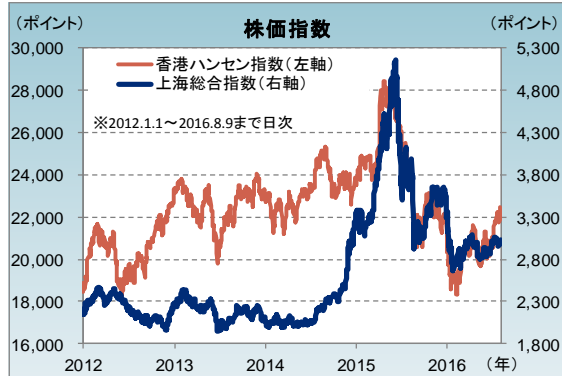
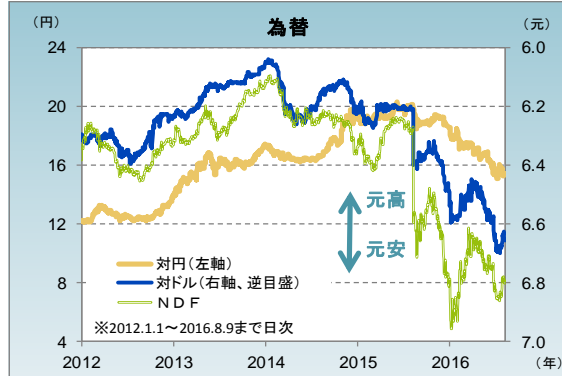
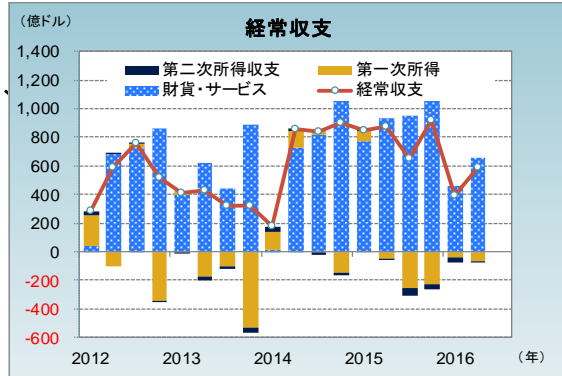
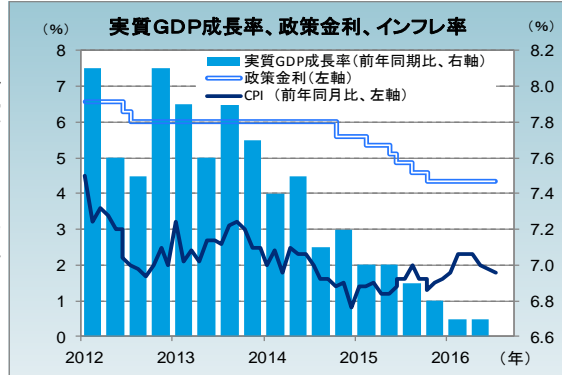
(騰落率)

### 株式

	(7月末)	1ヵ月 (6月末)	3ヵ月 (4月末)	年初来 (15年12月末)
上海総合指数 (2,979.34)		(2,929.61) <b>1.70%</b>	(2,938.32) <b>1.40%</b>	(3,539.18) <b>15.82%</b>
香港ハンセン指数 (21,891.37)		(20,794.37) <b>5.28%</b>	(21,067.05) <b>3.91%</b>	(21,914.40) <b>0.11%</b>

#### [政府の改善策期待]

供給過剰の改善策を政府が押し進め、商品市況価格が回復するとの期待から、資源株が好調。金融緩和期待も後押し。



## 当資料に関してご留意いただきたい事項

### 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。また、投資信託は預貯金とは異なります。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をよくご覧ください。

### 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただきます。その料率は投資信託によって異なります。さらに、下記以外の手数料・費用をご負担いただく場合、一部の手数料・費用をご負担いただかない場合もあります。詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をご覧ください。または、販売会社へお問い合わせください(カッコ内には、アムンディ・ジャパン株式会社が設定・運用する公募投資信託のうち、最も高い料率を記載しています。)

投資信託の購入時: 購入時手数料[最高料率3.78%(税込)]

投資信託の換金時: 信託財産留保額[最高料率0.5%]

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)[実質最高料率2.2312%(税込)]、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等を間接的にご負担いただきます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の手数料・費用が掛かることがあります。

※上記の費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

### <ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第350号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

### 【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社(以下、弊社)が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。